

# 受験者減、合格者増で、 合格率は5年ぶりアップの 3.42% ! 早大の合格者 226 人は東大と並び、21 年ぶり首位に

旺文社 教育情報センター

平成 16 年 12 月

平成 16 年度の司法試験第二次（最終）試験結果が先ごろ、法務省から発表された。出願者数・受験者数とも 11 年ぶりに減少したが、最終合格者数は 15 年度より 313 人（26.8%）増加して 1,483 人と過去最高になった。その結果、合格率は 3.42%（15 年度より 0.84 ポイントアップ）となり、5 年ぶりにアップした。

## ■合格者は過去最高の 1,483 人

平成 16 年 11 月、「16 年度の司法試験第二次（最終）試験結果」が法務省より発表された。それによれば、同試験の出願者数は 15 年度より 175 人（0.3%）減少して 4 万 9,991 人となり、11 年ぶりに減少した。受験者数も 4 万 3,367 人と、15 年度より 2,005 人（4.4%）減少し、11 年ぶりの減少となった（図 1 参照）。

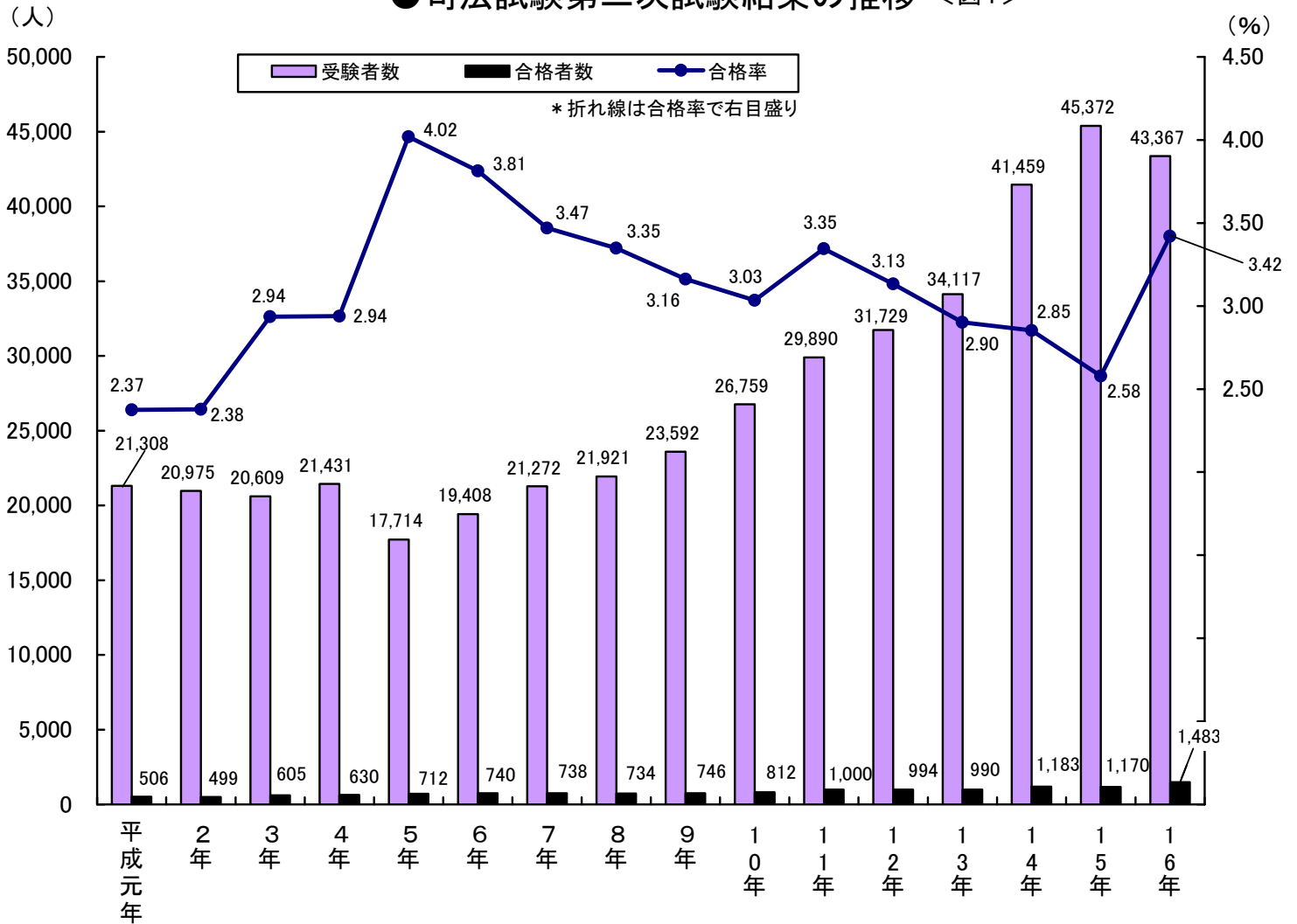
一方、最終合格者数は 313 人（26.8%）増の 1,483 人となり、過去最高に達した。その結果、受験者数に対する合格率は 3.42%（15 年度より 0.84 ポイントアップ）と、11 年度以来 5 年ぶりにアップし、やや広き門となった。

合格者数が過去最高になった背景には、政府が司法制度改革の一環として、法曹人口の増加を目指していることがある。

また、合格者数の男女別内訳を見ると、男性 1,119 人（15 年度 895 人）、女性 364 人（同 275 人）となり、男女ともに増加した。

合格者の平均年齢は 28.95 歳（同 28.15 歳）で、年齢別構成を見ると、「24 歳以下」が 15 年度の 299 人→271 人と 9.4%減少したのに対し、「25 歳以上」は 871 人→1,212 人と 39.2%も大幅に増加した。大学在学中の合格者数は全体の 16.3%に当たる 241 人となり、15 年度に比べて 33 人（12.0%）減少した。

## ● 司法試験第二次試験結果の推移 <図1>



### ■ 早大は21年ぶりの首位で、東大と並ぶ

出身大学別の16年度合格者数を見ると、東大は15年度より25人(12.4%)増加したが、早大も52人(29.9%)増加した結果、両大学ともに226人で1位になった(次ページの表参照)。東大は1位をキープし、早大は昭和58(1983)年度以来21年ぶりにトップに返り咲く形となった。

3位以下は、慶大170人(15年度123人)、京大147人(同116人)、中央大121人(同104人)、一橋大57人(同43人)などの順になっている。

また、図2に司法試験第二次試験の合格者数の上位5大学(東大・早大・慶大・京大・中央大)の推移をまとめた。東大・早大は前述のとおりだが、慶大・京大・中央大も合格者増で、15年度の順位をキープしている。

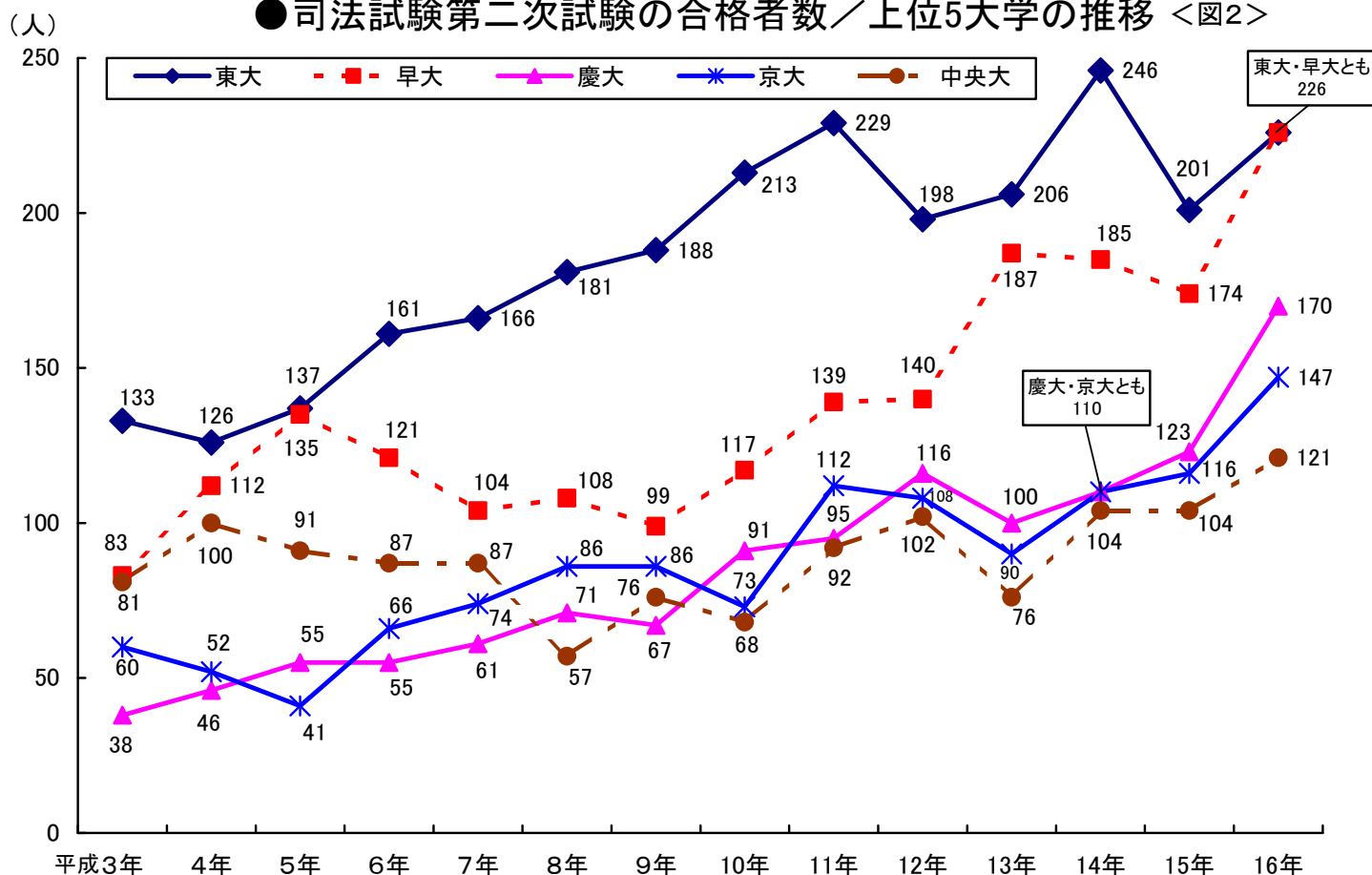
また、合格者数の伸びが目立ったのは、立教大(前年度比+250.0%) / 立命館大(同、+155.6%) / 都立大(同、+85.7%)などであった。

●司法試験第二次試験／出身大学別合格者数 (単位:人)

<表>

順位	大学名	16年度	15年度	順位	大学名	16年度	15年度	順位	大学名	16年度	15年度
1	東大	226	201	28	千葉大	7	2	47	高知大	1	0
1	早大	226	174	29	金沢大	6	0	47	鹿児島大	1	1
3	慶大	170	123	29	大阪市大	6	11	47	琉球大	1	1
4	京大	147	116	31	筑波大	4	4	47	大阪府大	1	0
5	中央大	121	104	31	横浜国大	4	0	47	北九州市大	1	0
6	一橋大	57	43	31	新潟大	4	1	47	北海学園大	1	1
7	明治大	46	33	31	静岡大	4	3	47	北星学園大	1	0
8	阪大	45	32	31	国際基督教大	4	4	47	白鷗大	1	0
9	神戸大	33	24	31	明治学院大	4	1	47	獨協大	1	2
10	同志社大	30	29	37	熊本大	3	0	47	中央学院大	1	0
11	東北大	29	37	37	駿河台大	3	0	47	國學院大	1	1
12	名大	26	14	37	近畿大	3	2	47	成城大	1	1
13	上智大	25	27	40	東京外語大	2	4	47	大東文化大	1	1
14	立命館大	23	9	40	岡山大	2	3	47	津田塾大	1	3
15	九大	21	18	40	香川大	2	0	47	東京音楽大	1	0
15	立教大	21	6	40	成蹊大	2	2	47	愛知大	1	2
17	関西大	19	12	40	東京女大	2	1	47	椋山女学園大	1	0
18	北大	16	23	40	京都産業大	2	3	47	南山大	1	0
18	関西学院大	16	12	40	龍谷大	2	2	47	名城大	1	0
20	都立大	13	7	47	群馬大	1	0	47	摂南大	1	0
21	日本大	12	11	47	お茶の水女大	1	2	47	甲南大	1	1
21	法政大	12	8	47	東京学芸大	1	1	47	神戸学院大	1	0
23	青山学院大	11	9	47	東京工大	1	2	47	広島女学院大	1	0
24	広島大	10	6	47	三重大	1	0	47	放送大	1	2
24	学習院大	10	7	47	大阪外語大	1	0		その他	3	16
26	創価大	9	2	47	島根大	1	0		合計	1,483	1,170
27	専修大	8	3	47	山口大	1	0				

●司法試験第二次試験の合格者数／上位5大学の推移 <図2>



## ■問われる法科大学院の在り方

16年度から開校した法科大学院の修了者を対象とする「新司法試験」が、18年度からスタートする。現行の司法試験は22年度まで併存するが、現行制度での合格者枠は大幅減になると予測されている。

ところで、新司法試験では、22年度には合格者数3,000人（現行の司法試験を含む）を目指しているが、法科大学院の新設や不合格者の再チャレンジなどで、毎年相当数の受験者が見込まれ、合格率は当初の目標（7～8割）を下回ることが予測されている。

そのため、法科大学院の学生などから、「新司法試験の合格者を増やして合格率を上げてほしい」との要望が出ており、法務省の司法試験委員会では、新司法試験の合格者数を現行よりも増やす方向でさらに検討を進めており、今後は法科大学院の関係者などにもヒアリングを行うという。

いずれにしても、法科大学院が今後の“法曹”（弁護士・裁判官・検察官）養成の中核的な教育機関になることは間違いなく、今後、法科大学院の教育内容の在り方や、新司法試験の合格率の問題などが議論的になるろう。